

八議文第 20 号  
令和元年12月13日

八雲町議会議長  
能登谷 正人 様

文教厚生常任委員会  
委員長 赤井 睦 美

### 委員会所管事務継続調査報告書（中間報告）

本委員会が、閉会中の継続調査として平成29年11月10日に決定を受けた所管事務調査につき会議規則第45条第2項の規定により下記のとおり報告いたします。

#### 記

#### 1 調査事件

- (1) 保健・福祉行政に関する調査
- (2) 八雲総合病院、熊石国保病院の運営に関する調査
- (3) 教育行政に関する調査
- (4) 上下水道事業・簡易水道事業の運営及び環境行政に関する調査

#### 2 調査期間

平成29年11月10日から令和元年9月13日

#### 3 調査の経過

本委員会は、閉会中の所管事務継続調査事項について、現状及び問題点を把握するため、所管課職員の出席をいただき、説明、報告及び資料の提出などを求め25回にわたり調査、検討を行ってきた。

特に、前委員会が作成・提出した『子育て支援施策』の中の未実施の項目について、委員からの一般質問も含め、実施に向け委員会で検討した。

また、八雲高校において1間口減という道教委からの報告を受け、魅力のある学校作りについても、先進地の視察を検討した。

町民の健康を守る自治体病院の存続・維持に向け、『働きやすい病院』『町民に親しまれる病院』を目指すとともに、緊急時の対応もスムーズにできるよう、院長・副院長住宅建設についても検討した。

#### 4 調査の結果

##### (1) 保健・福祉行政に関する調査

- ・前委員会より病児・病後児保育において、引き続き調査が必要との申し送りがあったが、町によるニーズ調査では、病児・病後児保育のニーズがなかったということで、調査には至っていない。
- ・子育て支援施策の項目について
  - ① 「高校生までの医療費の無料化」と助成対象の医療機関については「町内に限る」との提案に対し、医療機関は患者の意向もあるので、町内に限ることは不可能となり、全ての医療機関が対象となった。議会報告会でも、医療費無料化に対しては大変助かるとの声を多く聞くことが出来た。
  - ② 「おむつ代の助成」としてのクーポン券配布については、出産費用の助成も大きいので、もう少し様子を見ることとした。
  - ③ 「インフルエンザワクチン」の接種料金の一部助成については、国が行っていないという理由から行わないことになったが、引き続き、高齢者と同等の助成が受けられるよう、色々な角度から取り組んでいく必要がある。
  - ④ 給食費の半額補助については、完全無償化実施となった。しかし、このことはあまり多くの方たちに知られておらず、議会報告会でも「知らなかった」「いつから？」という声も聞かれた。年配の方からは「やりすぎではないか？」との声も聞かれるが、小中学生の保護者からは大変助かるとの声が多い。
  - ⑤ 「学童保育所」の保育料も保育所保育料同様、助成の対象とすべきという点に関しては、一部の児童に限られるので公平性に欠けることや、給食費・医療費の無償化により、保護者負担が軽減されるということから、様子を見ることとした。
  - ⑥ 中・高校生の「制服の助成」についても、町外に出る生徒もいるので公平性に欠けるという点から、今後の検討となった。しかし、八雲高校の存続を考えると、ここは実施すべきという考え方もある。
  - ⑦ 子育て中の家族が、八雲に残る、または八雲に転入する「移住・定住」政策の一つとして住宅リフォーム助成については、実施されることになったが、そのことがあまり知られておらず、活用する声が少ない。もっと子育て世代の方たちに利用してもらえるよう、広くPRが必要と考える。

以上が委員会として提言に対する検討結果の確認と、事業の検証について行った結果である。委員会でも、ここまで実現したことは大きな成果であるという結果となったが、その取り組みが少子化・人口減少のスピードを少しでも遅らせることにつながったかどうかの検証は必要である。また、私たちが気づかないところで、本当に必要な支援がないのかどうかの調査も引き続き行っていく必要がある。

## (2) 八雲総合病院・熊石国保病院の運営に関する調査

八雲総合病院においては、本館棟がリニューアルオープンしたにもかかわらず、地方の医師不足を痛感する事態となり、内科医師不在の危機的な状況に陥った。しかし、スタッフ全員の努力と町民の協力により、何とか診療を維持することができたが、患者数減につながったことは大きな痛手である。

新たに北大第 2 外科の協力やアドバイザーの導入もあり、これから少しずつ良い方向に向かう状況と考えているが、議会としても、それぞれの取り組みの評価・点検を行いながら、病院と町民の橋渡しが出来るよう取り組んでいく必要がある。

熊石国保病院においては、医師確保も実現し、地域に親しまれる病院となっている。しかし、建物の老朽化、ベッド数の稼働率の問題など課題は多く、今後地域の皆さまのニーズもしっかりと聞きながら、今後の病院の在り方を十分に検討する必要がある。

八雲町が二つの病院を永続的に維持するためには、今後どのような方向を目指すべきか、そのために今すべきことは何かということを議会としてもしっかりと把握し、町民・議会・病院・行政が一丸となって、「働きやすい病院」「町民に親しまれる病院」を目指していく必要がある。

## (3) 教育行政に関する調査

八雲町ではすべての小中学校が、小中一貫コミュニティ・スクールを導入し、順調に進んでいる。先行して導入した落部小中学校の PTA との懇談や教育委員会からの報告によると、「授業が楽しい」「わかることが増えた」という児童の声と共に、小学生の学力テストの結果がアップしているという報告もあり、すでに成果が見られている。しかし、成績アップだけが目的ではなく、地域全体で子どもたちを守り育てることも大きな狙いの一つなので、今後も様々な事故や事件に巻き込まれないように、情報共有を十分行う必要がある。

全国的に虐待やいじめにより死亡する子ども達の報道も増えているが、八雲町でもそうした悲しい事件が起こらないよう、学校・地域・行政が情報共有を密にし、対応することが必要である。議会としても、子ども達の声をしっかり聞き、楽しい学校・安心できる地域づくりに子ども達の力・地域住民の力が大いに活かされるよう考えていきたい。

(4) 上下水道事業・簡易水道事業の運営及び環境行政に関する調査

ゴミ固形燃料（RDF）化事業を進める旨報告されたが、経費が掛かりすぎるといふ調査結果により断念された。また、ごみ処理量の軽減を図るため、生ごみ収集も行っているが、町民の協力を得ることがなかなか難しく、収集量が増えていないことは残念である。ごみ袋の代金という直接的な支出だけではなく、ごみ処理そのものにも町民の多額な税金を使われていることを議会としてもしっかりと広報し、もっと有意義な使い道を町民と共に考えて行く必要がある。

汚水処理施設共同整備（MICS）事業についても2020年度供用開始に向け進められているが、施設整備完了後は速やかに移行され、経費の削減に努めていただきたい。これらは町民の生活に直結することなので、議会としても町民の意見を聞く機会を多くし、住みよい八雲町を目指す。

文教厚生常任委員長	赤	井	睦	美
副委員長	安	藤	辰	行
委員	黒	島	竹	満
〃	斎	藤		實
〃	佐	藤	智	子
〃	関	口	正	博
〃	千	葉		隆